

平成27年度 山口県立下関中等教育学校 学校評価書 校長(大木 至)

<p>1 学校教育目標</p> <p><教育理念> 地域の特性を生かし、国際化の進展に対応した学校づくり</p> <p><教育方針> 6年間の計画的・継続的な教育活動を通して、生きる力を育み、誇りと自信をもって世界に飛躍する人材の育成を図る。</p> <p><教育理念を具現化する4つの特色ある教育システム> 1 学力を大きく伸ばし、希望進路を実現する6年一貫の効果的な教育課程 2 世界に飛躍する人材を育成する語学教育と国際理解教育 3 豊かな人間性と主体性を育むチューター会・生徒会活動・部活動 4 大学や企業、公共団体等と連携した教育活動の推進</p> <p><学校教育目標> 6年一貫の効果的な教育活動の展開を図ることにより、確かな学力と豊かな人間性を育み、活力ある学校づくりをめざす。</p>
--

<p>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</p> <p>これから二十周年に向けて第2ステージの歩みを確かなものにし、地域から信頼され、地域を牽引する学校として、これからの変化の激しい時代において、中等教育学校の特色を十分に生かしながら、生徒一人ひとりの希望進路の実現に向けた取組を一層進めていく必要がある。</p> <p>○ 研究授業や互見授業等の取組を通じて授業力の向上に努めるとともに、課外授業や学習合宿、受験セミナー等様々な働きかけによって生徒の学力の向上に努めている。6年間の教育課程やシラバスについて研修をさらに充実させるとともに、生徒の実態に応じた授業内外における学習指導を推進し、学力のさらなる向上を図る。</p> <p>○ 6年間のキャリア教育全体計画に沿って、発達段階に応じた指導や講演会を計画的に行うとともに、各チューターによる面談の在り方について改善を行い、一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行っている。キャリア教育のさらなる充実を図り、生徒の発達段階に応じた適切かつきめ細かな指導により、生徒の希望進路の実現を図る。</p> <p>○ 学校行事、生徒会活動、委員会活動や国際交流活動など、生徒が主体的に活動する場を設定し、その中で生徒は様々な人たちと関わりながら積極的に活動している。また、清掃活動について手順の確認や振り返りを行うことを徹底することにより、意識が高まり取組が向上している。国際交流活動をこれまで以上に活性化し、体験を通じた豊かな人間性の育成を図る。また、生徒会・生活委員会の活動を通じた校内外におけるマナー意識の向上を図る。</p> <p>○ 緊急時(悪天候・事件・事故等)においては、教職員が円滑に対応するとともに、保護者に対してもきめ細かく情報を発信するなど、組織として適切に対応することができている。近年、突発的な事件・事故が増加していることから、今後、様々な危機に対応するために、マニュアルの見直し・改善及び徹底を行うとともに、訓練を実施して組織としての対応力をさらに高める必要がある。</p>
--

<p>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>(1) 確かな学力の保証 ○ 6年間の系統的な教科指導体制の推進 ○ 基礎・基本の確実な定着と発展学習の充実による応用力の育成 ○ 家庭と連携した学習習慣の確立</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現 ○ 生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばすきめ細かな指導の充実 ○ 明確な進路意識を醸成するキャリア教育の充実 ○ 進学実績の向上 ○ 新たな大学入学者選抜制度に対応した、より進学を重視した学校づくり</p> <p>(3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身につけた生徒の育成 ○ 豊かな人間性と行動力を持ち、社会に貢献できる人材を育む学校づくり ○ 国際交流活動の推進 ○ 体験的・探究的な活動の充実</p> <p>(4) 組織としての課題解決力の確立 ○ 危機管理体制の改善・充実 ○ 計画的な研修による教職員の資質向上</p>
--

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
広報宣伝	保護者や地域に学校の情報を積極的に発信する。	・学校ホームページ等の定期的・計画的な更新に取り組む。 ・学校通信を発行し、県下全小中学校に配付するとともに、地域への広報も行う。	4 年間、ホームページ更新を100回以上行い、学校通信を5回以上発行した。	3	学校通信を4回発行し、本校の特色や新たな取組について地域や県下全小学5、6年生に発信した。ホームページについては、新システム移行に向けて準備中で、現在のページの更新については、3月14日時点で89回である。	学校通信の内容の充実や広告掲載、塾訪問等、積極的に動いている。ホームページのリニューアルに期待したい。	B
			3 年間、ホームページ更新を80回以上行い、学校通信を4回発行した。				
			2 年間、ホームページ更新を60回以上行い、学校通信を3回発行した。				
			1 年間、ホームページ更新を40回以上行い、学校通信を1～2回発行した。				
教務	生徒が主体的に学習に取り組み、確かな学力をつけることのできる環境づくりに努める	・教育課程に関する教員の理解を深め、教育課程の一層の充実を図る。 ・生徒一人ひとりの希望進路の実現に向けた科目選択指導の充実を図る。	4 教育課程に関する研修会(勉強会)・検討委員会等を年12回以上行った。	3	教育課程検討委員会を3回、2～5回生の科目・コース等の予備・本調査時の説明を各2回実施した。年度途中に来年度以降の教育課程の改訂が進み、教員全体の理解を深めるまでには至らなかった。	新しい教育課程の編成をはじめ学力向上のための取組がいろいろ見られる。授業に真剣に取り組む生徒の割合が100%に近づくよう指導してもらいたい。	B
			3 教育課程に関する研修会(勉強会)・検討委員会等を年9回以上行った。				
			2 教育課程に関する研修会(勉強会)・検討委員会等を年6回以上行った。				
			1 教育課程に関する研修会(勉強会)・検討委員会等が年5回以下しか行えなかった。				
生徒指導	基本的な生活習慣の確立により、校内および校外生活の充実・向上を図る。	・生徒会活動・あいさつ運動・ボランティア活動の推進を通して、ルールからマナー・エチケットへと意識改革を図る。	4 学校評価アンケート(生徒)の校則が守られているという結果が90%以上である。	4	どの学年も90%以上の生徒が校則が守られているという認識をもっている。生徒総会においてもマナーについての話し合いをし、生徒のマナーへの意識が高まった。また、朝登校時にあいさつ運動を続けることや、ひこつとランド海岸清掃など生徒が自主的なボランティア活動を行うことを通じて、マナーからエチケットへの生徒の意識改革を図ることができた。	きまりは非常によく守られ、落ち着いた学校生活を送っているようである。生徒のマナー・エチケットへの意識のさらなる向上に努めてもらいたい。	A
			3 学校評価アンケート(生徒)の校則が守られているという結果が80%以上である。				
			2 学校評価アンケート(生徒)の校則が守られているという結果が70%以上である。				
			1 学校評価アンケート(生徒)の校則が守られているという結果が60%以上である。				

特別活動	生徒の自発的活動を活発化させ、学校内だけでなく地域にも目を向けた活動をする学校を作る。	・定期的に専門委員会を開催し、生徒自身がリーダーシップを発揮し、学校行事や地域に目を向けた活動を指導・支援する。	4 専門委員会を毎月実施し、先を見通した計画を立て、校内だけでなく地域にも目を向けた生徒の自発的活動が行われた。 3 専門委員会を毎月実施し、先を見通した計画を立て、学校行事に対する生徒の自発的な活動が活発に行われるようになった。 2 専門委員会を毎月実施し、いくつかの自発的活動や学校行事に対する生徒の活動が見られるようになった。 1 専門委員会を2ヶ月に1回程度実施し、自発的活動や学校行事に対する生徒の意識が高まった。	4	専門委員会を12回実施した。さらに、海岸清掃ボランティア活動参加の呼びかけを行うなど地域に目を向けた活動をサポートし、生徒の自発的な活動を円滑に行うことができた。また、定期考査週間の生徒会主催の自習室の設置や、ボランティアへ自主的に参加する募集システムなど生徒から発案された新たな取組も行うなど、リーダーシップを発揮した。	専門委員会や学校行事を通して、生徒の主体的な活動をよく引き出している。ボランティア活動の一層の充実にも努めてもらいたい。	A
人権教育	人権尊重の意識を高め、生徒一人ひとりを大切にする教育を組織的・計画的に推進する。	・効果的に研修を計画し、組織的に教育活動を展開する。	4 推進委員会を4回以上、講演会を1回以上開催し、規範意識や人権意識の高揚を図ることが十分できた。 3 推進委員会、講演会を開催し、規範意識や人権意識の高揚を図ることができた。 2 推進委員会を開催し、規範意識や人権意識の高揚を図ることができた。 1 計画的な研修ができず、規範意識や人権意識の高揚を図ることができなかった。	3	推進委員会を3回開催し、講演会を1回開催した。今年度は性教育との連携を図り、年間計画の一体化を行った。また、いじめ防止に向けて、授業実践や、NHKのキャンペーンへの参加などを行い、生徒の人権意識の高揚を図ることができた。	推進委員会や研修、授業など、様々な形で生徒の人権意識を高めている。情報モラルに関する指導も充実させてもらいたい。	A
道徳教育	発達段階に応じ、自他の生命を尊重し、お互いに認め合い感謝し合いながら集団生活の向上を図ろうとする生徒の育成を図る。	・自他を大切にしながら、共に集団生活の向上を図ろうとする態度を養うことをめざし、道徳の時間を要したすべての教育活動に取り組む。	4 常に自他を大切に、共に集団生活の向上を図っていかうとする態度が十分にみられた。 3 自己肯定感をもち、そのうえ相手の立場に立った行動・態度がみられるようになった。 2 自己肯定感をもち、自信をもって前向きに行動できるようになった。 1 自己肯定感をもち、他人を傷つけるような場面がみられた。	3	各学年の課題に即した授業実践や学校行事等の体験活動を通して、生徒の自己肯定感が高まるとともに、仲間を大切にしようとする気持ちが高まったことが、授業や行事の感想文からうかがえた。その結果、日頃の学校生活の中で、仲間に対する優しい行動や、良いところを認め合おうとする態度が見られるようになった。	道徳の授業や学校行事などの活動によって、素直な優しい生徒が育っている。自主性やたくましさも育んでいってもらいたい。	B
教育相談	生徒一人ひとりの成長を支援するために、情報共有し、積極的な教育相談活動を行う。	・生徒・保護者との面談やチューターとSCとの連携により問題を早期発見し、個別の支援を行う。	4 生徒・保護者や教員、SC、専門機関と密接に情報連携し、行動連携がとれ、教育相談活動ができた。 3 生徒・保護者や教員、SC、専門機関と密接に情報連携し、教育相談活動ができた。 2 生徒・保護者や教員、SC、専門機関と連携がとれず、教育相談活動があまりできなかった。 1 情報連携、行動連携が機能せず、教育相談活動が十分にできなかった。	4	毎日の保健室における情報交換やチューター・学年主任との情報交換によって教員間の情報共有ができた。また、保護者、SC、専門機関と密接に連携して教育相談活動を行うことができた。	校内の教育相談体制を充実させるとともに、校外の専門家や機関とも連携し、様々な課題をもつ生徒に的確に対応している。	A
キャリア教育	キャリア教育の充実を図り、生徒の進路意識を高める。	・キャリア講演会、キャリア調査、キャリアファイル等を通して、系統的・計画的なキャリア教育を推進する。	4 80%以上の生徒がキャリア意識（進路意識）の向上を肯定的に感じた。 3 50%以上の生徒がキャリア意識（進路意識）の向上を肯定的に感じた。 2 40%以上の生徒がキャリア意識（進路意識）の向上を肯定的に感じた。 1 生徒のキャリア意識の向上は十分に認められなかった。	3	キャリア意識（進路意識）の向上を肯定的に感じた生徒の割合は、67%であった。各学年ともその時期の目標設定に基づいた年間2回程度のキャリア講演会を実施した。実施後には内容を文章にまとめる活動やキャリアファイルの整理を行い、前後につながる活動や心づけるための指導を、日々の教科指導や将来の目標を考えさせる進路講演会・キャリア講演会・オープンキャンパス等を通じて充実させていきたい。	計画的なキャリア講演会の実施等によって生徒のキャリア意識の向上に努めている。大学や企業等とも連携を深め、取組をさらに充実させてもらいたい。	A
進学指導	生徒が自ら学ぶ態度を育成するとともに、教科指導力を高めることによって、生徒が希望進路を実現できるよう学力向上を図る。	・学ぶ環境整備を図りながら自主学習の取組を促す。 ・積極的に模擬試験等に取り組ませる。	4 後期課程生の学習到達ゾーン（GTZ）の達成率が85%以上である。 3 後期課程生の学習到達ゾーン（GTZ）の達成率が75%以上である。 2 後期課程生の学習到達ゾーン（GTZ）の達成率が70%以上である。 1 後期課程生の学習到達ゾーン（GTZ）の達成率が十分認められない。	4	6回生では模試登録を行い、受験者数を拡大し、大学入試に備えた。GTZ達成率は6回生が79%、5回生が92%、4回生が87%である。今年度から4・5回生で全員受験の模擬試験を1回増やし、GTZを細かく測定する。今後も、目標に近づけるための指導を、日々の教科指導や将来の目標を考えさせる進路講演会・キャリア講演会・オープンキャンパス等を通じて充実させていきたい。	年々GTZ達成率が上がっていることは評価できる。また、授業の充実に加え、課外授業やセミナー、小論文指導等、きめ細かな指導をしている。	A
就職指導	望ましい勤労観・職業観を醸成させるとともに、生徒の希望する職業生活への円滑な接続を図る。	・就職希望者に対して進路指導課及び就職支援教員による面接を効果的に実施する。	4 就職希望者全員が就職することができた。 3 就職希望者の70%以上が就職することができた。 2 就職希望者の50%以上が就職することができた。 1 就職希望者の50%未満しか就職することができなかった。	4	就職希望の生徒全員に対して、相談活動や模擬面接を複数回実施した。応募前職場見学を実施し、生徒の希望と適性に合った職種にマッチングさせることができた。厳しい就職環境の下で就職するためには、良好な生活態度を身に付けさせ、学習成績を向上させることが必要である。	情報提供や職場開拓、相談・面接指導などを的確に行い、就職希望者全員が内定を受けたことは評価できる。	A
体育	体育的行事をとおして達成感を味わわせ、リーダーおよび主体的に活動できる生徒の育成を図る。	・実行委員、専門委員、係等のリーダーを中心に、同学年及び異学年間の連携を深め、計画的・組織的な活動を充実させる。	4 行事の成功に向け、貢献したと思える生徒が85%以上であった。 3 行事の成功に向け、貢献したと思える生徒が65～84%であった。 2 行事の成功に向け、貢献したと思える生徒が45～64%であった。 1 行事の成功に向け、貢献したと思える生徒が44%以下であった。	4	体育大会、マラソン大会などの行事について、健康委員や実行委員を中心に、充実した活動を展開することができた。アンケートにおいても、90%近い生徒が体育大会は有意義だったと答えていた。	生徒が主役として活動するよう的確に指導し、体育大会などの体育的行事を成功に導いた。生徒の満足度も非常に高い。	A
保健	心身の健康の意義を理解させ、健康に対する自己管理能力の育成を図る。	・健康診断や健康相談、保健だより、日々の健康観察等をおして随時指導を行う。	4 学校評価アンケートの生活習慣に関する項目で肯定的な評価が85%以上であった。 3 学校評価アンケートの生活習慣に関する項目で肯定的な評価が65%以上であった。 2 学校評価アンケートの生活習慣に関する項目で肯定的な評価が45%以上であった。 1 学校評価アンケートの生活習慣に関する項目で肯定的な評価が25%以上であった。	4	学校評価アンケートにおいて85%以上の生徒・保護者が、本校の保健指導は基本的な生活習慣の確立に役立っていると回答していた。保健室からの情報発信や生徒への適切な指導をとおして、生徒の健康を支えることができた。	養護教諭を中心に保健指導、保健に関わる業務に積極的に取り組み、生徒・保護者の健康に対する意識の向上に努めた。	A
環境	環境衛生に対する意識を高め、清掃活動に主体的に取り組もうとする生徒を育てる。	・掃除マニュアル導入や反省活動を通じて掃除への積極的な関わり意識を徹底させる。 ・生徒自ら見つけ掃除に積極的に取り組む姿勢を育てる。	4 掃除への主体的な取組の意識が高まったという生徒が90%以上あるとともに、日常生活でも環境美化の意識が高まっている。 3 掃除への主体的な取組の意識が高まったという生徒が80%以上あり、校内環境の美化を意識した清掃活動が行われている。 2 掃除への主体的な取組の意識が高まったという生徒が60%以上あり、校内環境の美化を意識した清掃活動が行われている。 1 掃除への主体的な取組の意識が高まったという生徒が半数以下であり、校内環境の美化を意識した清掃活動が不十分である。	3	講演、生活委員が作成したマニュアルの活用、反省会の実施等により、掃除に対する生徒の意識が向上しつつあるが、校内美化が行き届いているかというアンケートの結果を見ると、学年間の差が大きい。担当者からの声かけや継続的な取組により、「みつけ掃除」という言葉が生徒に浸透し、実践する生徒が増えた。	生活委員会の活動やボランティア活動の活性化、講演会の実施等により清掃活動の充実にも努めているが、学校全体の積極的な取組につながるようにしてほしい。	B
寮務	「人」を大切に、自立した寮生活を送るために、生活規律の徹底を図る。	・ミーティングや委員会活動を通じて細やかな指導を行い、集団生活に必要な規律を徹底させる。	4 ミーティングや委員会活動を活発に行い、集団生活に必要な規律の保持が十分に徹底できた。 3 ミーティングや委員会活動を行い、集団生活に必要な規律の保持がおおむねできた。 2 ミーティングや委員会活動を行い、集団生活に必要な規律の保持に対する意識が高まった。 1 ミーティングや委員会活動を行ったが、集団生活に必要な規律の保持が徹底できなかった。	3	ミーティングをほぼ一月ごとに行い、各委員もそれぞれの責任を十分に果たすことができた。一方、生活面においては挨拶や時間を守るなど、改善すべき点があった。	一人ひとりにていねいな指導を行うとともに、委員会活動や寮の行事等の中でも生徒の規範意識や主体性を育成している。	B

総合的な学習	本校の特色ある取組である総合的な学習の時間(海峡学)の取組を通してキャリア教育の充実を図る。	・研究のスキルを高める活動を取り入れる。 ・進路への関心や課題解決力を高めることにつながる取組を推進する。	4	学校評価アンケート結果(生徒・保護者・教職員)の該当項目の90%以上が肯定的である。	3	生徒88%、保護者90%が海峡学で充実した研究・学習ができていると考えている。また、生徒90%、保護者90%が海峡学がキャリア教育に役立っていると考えている。各学年において、研究のスキルや課題解決力を高めるために活動を工夫していた。テーマを複数の視点から掘り下げ、生徒の実態に対応しながら学習を進めることができた。	6年間を見通した指導計画の中で、幅広い力を育てている。その取組をキャリア教育の一層の充実につなげていただきたい。	A
			3	学校評価アンケート結果(生徒・保護者・教職員)の該当項目の70%以上が肯定的である。				
			2	学校評価アンケート結果(生徒・保護者・教職員)の該当項目の50%以上が肯定的である。				
			1	学校評価アンケート結果(生徒・保護者・教職員)の該当項目の50%未満が肯定的である。				
チューター制	本校の特色ある取組であるチューター制を生かし、日々のきめ細かな生活指導や行事を通じて達成感、充実感を味わわせる。	・実践事例を活用し、チューター会の運営の充実を図る。 ・生徒同士、教員と生徒の人間関係づくりを進める。	4	学校評価アンケート結果(生徒・保護者・教職員)の該当項目の90%以上が肯定的である。	3	生徒91%、保護者95%がチューター制のシステムが有意義であると考えている。一方で、教員は48%が有意義であると考えている。且、陵祭、百人一首大会、合唱コンクール等の行事のほか、複数回のきめ細かな面談について成果があるといえる。	チューター会におけるきめ細かな指導に対して、生徒・保護者から非常に高い評価を受けている。より効果的・効率的な運営を進めてもらいたい。	A
			3	学校評価アンケート結果(生徒・保護者・教職員)の該当項目の70%以上が肯定的である。				
			2	学校評価アンケート結果(生徒・保護者・教職員)の該当項目の50%以上が肯定的である。				
			1	学校評価アンケート結果(生徒・保護者・教職員)の該当項目の50%未満が肯定的である。				
国際交流	国際交流活動を円滑に実施し、生徒の国際理解を深める。	・海外派遣事業、諸外国からの学校訪問受入等を積極的に行う。 ・総合的な学習の時間(東アジア文化入門)の取組を充実させる。	4	学校評価アンケート結果と国際交流に関する調査結果の90%以上が肯定的である。	4	生徒96%、保護者96%が国際交流が盛んな学校であると考えている。世界スカウトジャンボリーをはじめ、姉妹校の晋州高校訪問受入等を行った。海外派遣事業の募集に多数の生徒が応じ参加した。3回生の語学研修旅行や東アジア文化入門の積極的な取組、訪問受入の交流内容の工夫の成果が表れている。	受け入れや派遣など様々な国際交流を行い、生徒も意欲的に活動している。学校の特色として、今後とも積極的な取組を進めてもらいたい。	A
			3	学校評価アンケート結果と国際交流に関する調査結果の70%以上が肯定的である。				
			2	学校評価アンケート結果と国際交流に関する調査結果の50%以上が肯定的である。				
			1	学校評価アンケート結果と国際交流に関する調査結果の50%未満が肯定的である。				
研修	教員研修を計画的に実施し、評価を通じて教育活動の改善を図る。	・研修職員会議や授業公開週間とワークショップ形式の研究授業を計画的に推進する。 ・学力調査等により成果を検証して、次の実践につなげていく。	4	授業評価アンケート結果(生徒)の該当項目の90%以上が肯定的である。	3	互見授業週間を計4週間設定し、200回程度の公開授業が行われ、一定の成果があった。アクティブ・ラーニングの「学び合い」をキーワードに研修を行ったが、各教科の縦断的な授業方法や、教科の枠を超えた横断的な研修が不足しており、今後の改善が必要である。短期間のPDCAサイクルを全体的に構築する必要がある。	研修のシステムを作り、共通テーマによる取組などを着実に実施している。新しい課題に対応できる効果的な取組を工夫して進めてもらいたい。	B
			3	授業評価アンケート結果(生徒)の該当項目の70%以上が肯定的である。				
			2	授業評価アンケート結果(生徒)の該当項目の50%以上が肯定的である。				
			1	授業評価アンケート結果(生徒)の該当項目の50%未満が肯定的である。				
業務改善	教育活動の重点化や業務の効率化により、教職員が生徒と向き合う時間を確保する。	・学校行事の精選を行う。 ・アンケート業務のスリム化・効率化を行う。	4	学校行事の精選やアンケート業務の効率化について検討し、十分な改善を図ることができた。	3	アンケートについては、実施回数半減、機械導入による業務の効率化を行った。学校行事の精選については、タスクフォースで検討・提案を行っているが、今後さらに見直しを進めていく。また、2学期制に合わせて成績処理や考査を実施することによる負担軽減も検討している。	効率的な学校運営が形になってきたと感じる。具体的になるように今後もさらに努力してもらいたい。	A
			3	学校行事の精選やアンケート業務の効率化について検討し、ある程度の改善を図ることができた。				
			2	学校行事の精選やアンケート業務の効率化について検討したが、改善を図ることができなかった。				
			1	学校行事の精選やアンケート業務の効率化について検討することができなかった。				

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

開校12年目を迎え、外部環境も変化する中、豊かな人間性と確かな学力を育成するため、中高一貫教育の特色を生かした教育活動の一層の充実を図った。これまでの取組をより充実させるとともに、プロジェクトチームやタスクフォースチームで様々な新しい取組の検討や提案を行った。

(1) 確かな学力の保証

- 6年間の系統的な教科指導体制の推進
 - ・学力のさらなる向上をめざし、6年一貫のメリットをより一層生かすための新しい教育課程の編成、高校教育内容の先取りや速修化をより一層行うことができるよう、各教科におけるシラバスの見直しなどを行った。
 - ・各教科における授業研究、学校全体の互見授業の取組の中でアクティブ・ラーニングの取組を進めているが、全校的な取組をさらに進めるため

別授

- に研修体制を充実させる必要がある。
- 基礎・基本の確実な定着と発展学習の充実による応用力の育成
 - ・多くの授業で、きめ細かく小テストを実施したり課題を与えたりして、基本的事項の定着を図りながら授業を進めた。数学・英語の習熟度別授業では、それぞれの学力層に焦点を当てた指導の工夫を行っている。
 - ・3回生の接続テストを3回に増やし、前期課程に必要な学力の定着を図った。
 - ・生徒の学力や進路希望に合わせた課外や補充授業、個別指導を行った。
- 家庭と連携した学習習慣の確立
 - ・生徒との面談、保護者との懇談等において、自主学習の取組について確認、指導を行った。キャリア調査等においても、自主学習の実態把握を

(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現

- 生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばすきめ細かな指導の充実
 - ・面談週間・月間を設定し、時間を確保して個人面談を行うなど、チューター制のメリットを生かし、非常にきめ細かく個別指導を行った。
 - ・サーバー上に引継ぎカルテデータを置き、担当部署が各項目に入力することにより、生徒の多面的な情報を共有・活用し、学年を越えて引継ぎ
- をできるシステムをスタートさせた。
- ・きめ細かな進路指導をより充実させるため、後期課程における新しい進路別クラス編成を決定した。
- 明確な進路意識を醸成するキャリア教育の充実
 - ・キャリア講演会やキャリア調査の実施、キャリアファイルの整理等によってキャリア教育の充実を努めた。また、「海峡学」を柱とした高
- 大連
- 携の取組を開始した。
- ・今後、さらに系統的・計画的なキャリア教育を推進する必要がある。
- 進学実績の向上
 - ・後期課程各学年において進路検討会を複数回実施し、学年指導、個別指導に生かした。
 - ・6回生では模試登録のシステムによって模試受験者を拡大するとともに、個別の小論文指導、面接指導等によって、様々な形の入試への対応
- を行った。

- (3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身につけた生徒の育成
- 豊かな人間性と行動力を持ち、社会に貢献できる人材を育む学校づくり
 - ・学校行事や生徒会活動、委員会活動など生徒が主体的に活動できる場を多く設定した。それぞれの活動において、生徒は同級生や異学年の生徒と関わり、様々な工夫をしながら積極的に活動した。
 - ・校内外のボランティア活動の機会を増やし、ボランティア活動に対する意識も高まった。
 - 国際交流活動の推進
 - ・中国や韓国からの訪問団の受け入れ、姉妹校交流、世界スカウトジャンボリーの地域プログラムにおける交流など、本年度も多くの国際交流活動を実施し、生徒は積極的に交流を行った。
 - ・海外派遣事業や短期留学などについても、例年以上の応募者・参加者があった。
 - 体験的・探究的活動の充実
 - ・総合的な学習の時間「海峡学」において、フィールドワークや職場体験を実施するとともに、各学年において、様々なテーマで課題発見・追究・発表という探究活動を行った。研究については、大学からのサポートも受け充実に努めた。
- (4) 組織としての課題解決力の確立
- 危機管理体制の改善・充実
 - ・緊急時における緊急メールや文書等の情報発信をきめ細かく行うとともに、様々な問題に対して組織的な対応に努めた。
 - ・対応体制のシステムづくり、対応方法の共通理解をさらに進める必要がある。
 - 計画的な研修による教職員の資質向上
 - ・AED講習、綱紀保持についての研修等を実施した。
 - ・アクティブ・ラーニングの取組や生徒指導の充実、いじめ問題への対応など、様々な課題への対応について研修をより充実させる必要がある。
- (5) その他
- 広報活動の充実
 - ・学校通信「飛翔」の内容の充実、ホームページのリニューアルの準備を進めた。
 - ・担当を一元化し、より組織的で効率的な取組を行う必要がある。
 - 業務の改善
 - ・会議の精選や、職員会議の議題の精選などを行った。
 - ・職員会議の運営について、さらなる効率化の工夫を行う必要がある。
 - 組織の工夫

7 次年度への改善策

次年度は、新しい歩みを確かなものにし、地域から信頼される学校としてこれからの社会に求められる豊かな人間性と確かな学力を備えた人材を育成するために、本校の特色を生かした教育活動を一層充実させていく必要がある。

- (1) 確かな学力の保証
- 平成28年度に次期学習指導要領が示されることから、全体研修会で教員の理解を深め、それに基づいた教育課程の編成に着手する。
 - 全校体制でアクティブ・ラーニングについての研究を進め、生徒の主体的・協働的な学習を引き出す。
 - ステップアップノートの活用や教科指導の工夫、チューターによる面談等によって、生徒の自主学習を促すとともに、模試の事前・事後指導の充実によって、学習への意識や学力の向上を図る。
- (2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現
- 平成32年度から始まる新たな大学入試制度に対応するための現在の取組を評価し、さらなる改善に取り組む。
 - 「海峡学」の取組をキャリア教育の柱として位置付け、それを中心に6年一貫のキャリア教育をより充実させ系統的・計画的な指導を行う。
- 特に
- 高大連携を積極的に進め、進路についての生徒一人ひとりの意識を前期課程の早い段階から高めさせる。
 - 職場体験学習の一層の充実を図るため、その実施時期や方法について再検討を行う。
- (3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身につけた生徒の育成
- 学校行事や生徒会活動をリトル・ティーチャーの取組などによって活性化し、スムーズに運営でき、生徒の主体性やリーダー性が高まるシステムづくりを進める。
 - 清掃活動やボランティア活動の一層の充実を図る。
 - 国際交流活動をさらに積極的に推進するとともに、留学の推進も積極的に行う。
- (4) 組織としての課題解決力の確立
- 生徒指導や危機管理などの様々な緊急事態に迅速かつ組織的に対応できるよう、マニュアルやシステムについて計画的に研修や訓練を実施する。
 - 教科研修会を月に1回程度実施し、6年一貫の教科指導の在り方について組織的な取組を推進する。
- (5) その他